

令和3年度徳島県公立高等学校入学学力検査
集計結果について

徳島県教育委員会教育創生課

令和3年度

徳島県公立高等学校入学学力検査（特色選抜）の成績結果の概要

本年度の徳島県公立高等学校入学学力検査（特色選抜）は、検査Ⅰ（国語、社会、英語）、検査Ⅱ（数学、理科、英語）の2部構成とし、5教科について実施した。

配点は、各教科40点満点で、学力検査の総点は、200点満点である。

問題作成に当たっては、学習指導要領に示された範囲内での出題とし、中学校教育における平常の学習によって培われた力で解答できる問題となるように配慮した。また、学習指導要領に示されている各教科の目標・内容を踏まえて、基礎的・基本的な学力の定着の程度を中心にみることに配慮した。

5教科総合の平均点は、100点満点に換算して、55.8点であり、昨年度より4.5点高かった。なお、成績集計の結果は、別表のとおりである。

令和3年度
徳島県公立高等学校入学学力検査(特色選抜)成績表

受検者総数 701名

年度 教科	令和3年度		令和2 年度の 平均点 と比較	過去5 か年の 平均点 と比較	令和2年度		過去5 か年の 平均点
	平均点 (40点満点)	標準偏差			平均点 (40点満点)	標準偏差	
国語	25.2	7.2	+ 1.4	+ 1.5	23.8	7.7	23.7
数学	24.4	10.3	+ 5.2	+ 2.0	19.2	10.0	22.4
社会	24.3	9.4	+ 5.6	+ 3.8	18.7	8.7	20.5
理科	20.3	8.8	+ 0.6	- 0.8	19.7	10.1	21.1
英語	17.2	10.4	- 3.9	- 5.3	21.1	11.1	22.5
5教科総合	22.3	7.6	+ 1.8	+ 0.2	20.5	8.1	22.1

年度 教科	平均点						
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	
国語	29.9	22.3	19.4	23.0	23.8	25.2	63.0%
数学	19.8	24.8	23.9	24.1	19.2	24.4	61.0%
社会	22.3	20.1	18.3	23.2	18.7	24.3	60.8%
理科	20.2	23.8	18.3	23.6	19.7	20.3	50.8%
英語	24.2	21.8	22.0	23.5	21.1	17.2	43.0%
5教科総合	23.3	22.6	20.4	23.5	20.5	22.3	55.8%

令和3年度

徳島県公立高等学校入学学力検査の成績結果（一般選抜）の概要

本年度の徳島県公立高等学校入学学力検査（一般選抜）は、国語、数学、社会、理科、英語の5教科について実施した。

配点は、各教科100点満点で、学力検査の総点は、500点満点である。

問題作成に当たっては、学習指導要領に示された範囲内での出題とし、中学校教育における平常の学習によって培われた力で解答できる問題となるように配慮した。また、学習指導要領に示されている各教科の目標・内容を踏まえて、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度や、思考力・判断力・表現力等をみることができ問題となるように配慮した。様々な思考過程により解答を導くことができる問題や多様な表現力をみる問題、日常生活に関連させた事項を題材とした問題、知識・技能を活用して課題を解決する問題も作成した。

5教科総合の平均点は、100点満点で、55.1点であり、昨年度より1.2点低く、過去5か年の平均点より0.3点高かった。なお、成績集計の結果は、別表のとおりである。

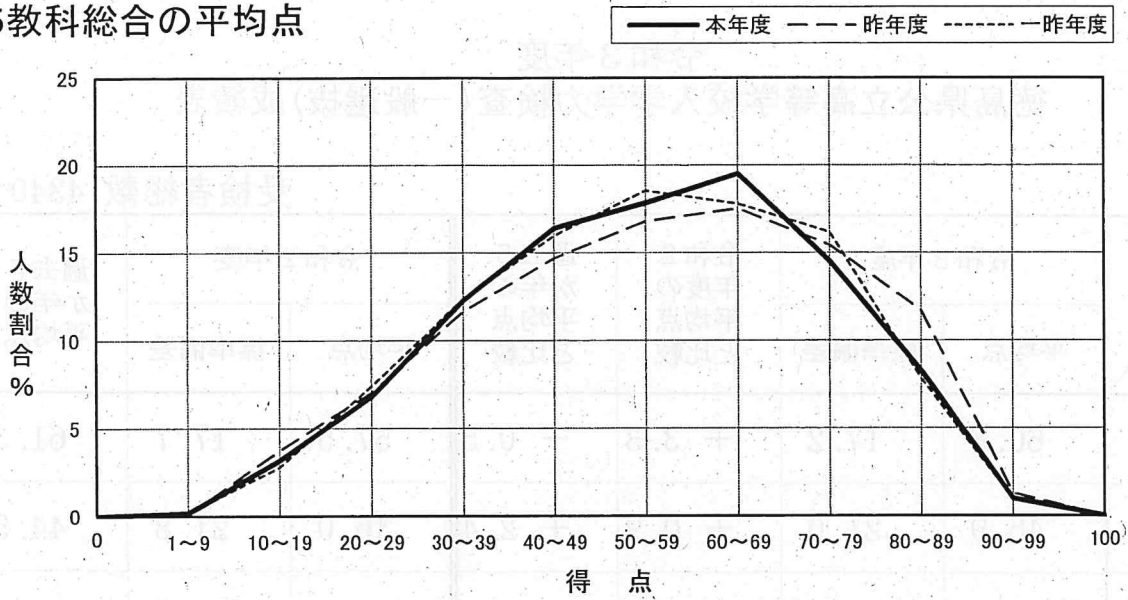
令和3年度
徳島県公立高等学校入学学力検査(一般選抜)成績表

受検者総数 4340名

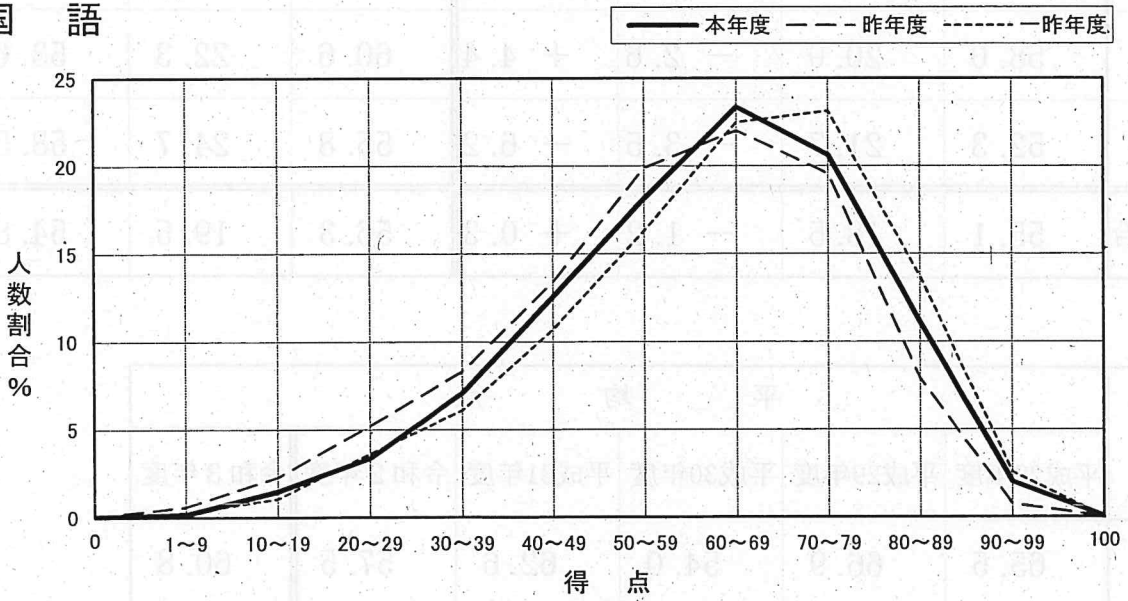
年度 教科	令和3年度		令和2年度の 平均点と 比較	過去5 か年の 平均点 と比較	令和2年度		過去5 か年の 平均点
	平均点	標準偏差			平均点	標準偏差	
国語	60.8	17.2	+ 3.3	- 0.5	57.5	17.7	61.3
数学	46.9	21.0	+ 0.9	+ 2.4	46.0	21.8	44.5
社会	57.6	23.1	- 3.6	+ 1.6	61.2	21.3	56.0
理科	58.0	20.0	- 2.6	+ 4.4	60.6	22.3	53.6
英語	52.3	21.7	- 3.5	- 6.2	55.8	24.7	58.5
5教科総合	55.1	18.5	- 1.2	+ 0.3	56.3	19.5	54.8

年度 教科	平均点					
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
国語	65.5	66.9	54.0	62.6	57.5	60.8
数学	43.4	46.6	40.4	46.1	46.0	46.9
社会	56.7	54.2	53.3	54.8	61.2	57.6
理科	44.7	56.3	51.9	54.5	60.6	58.0
英語	59.9	60.6	59.0	57.4	55.8	52.3
5教科総合	54.0	56.9	51.7	55.1	56.3	55.1

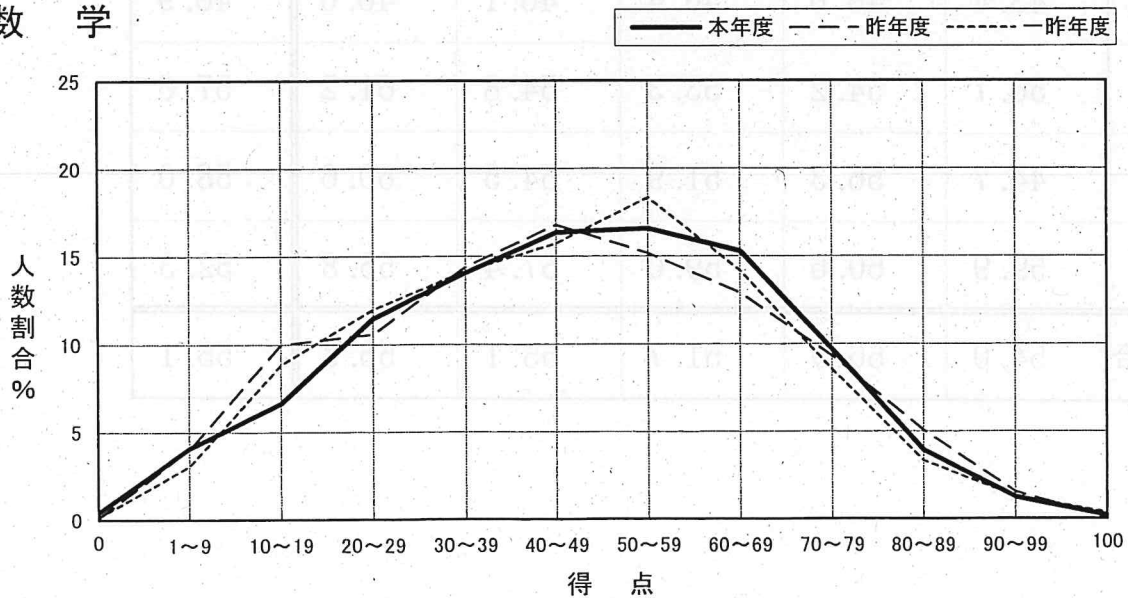
5教科総合の平均点



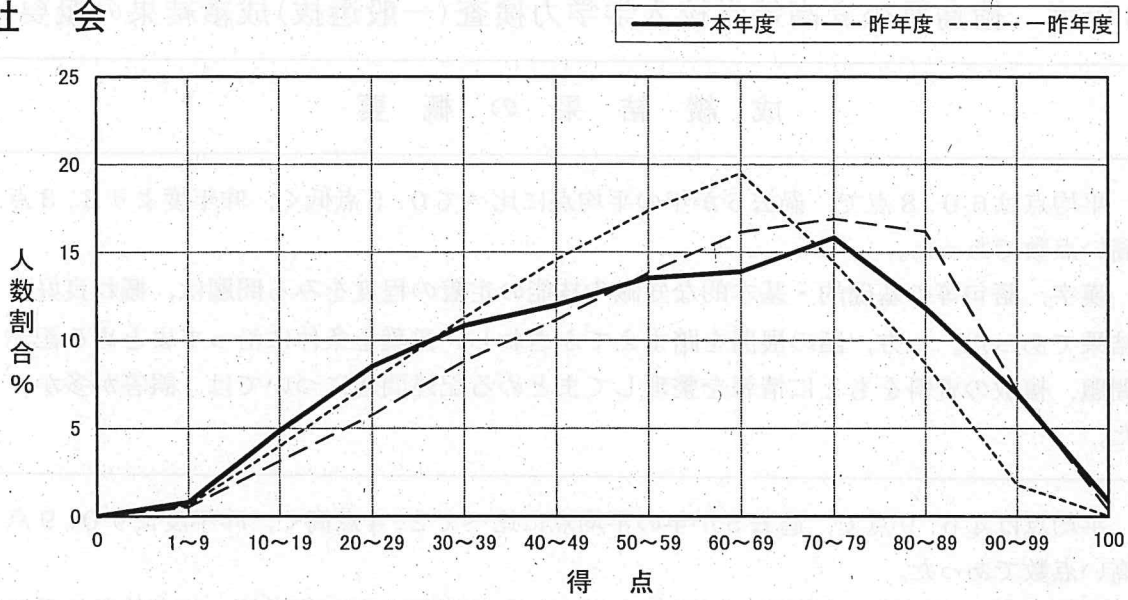
国語



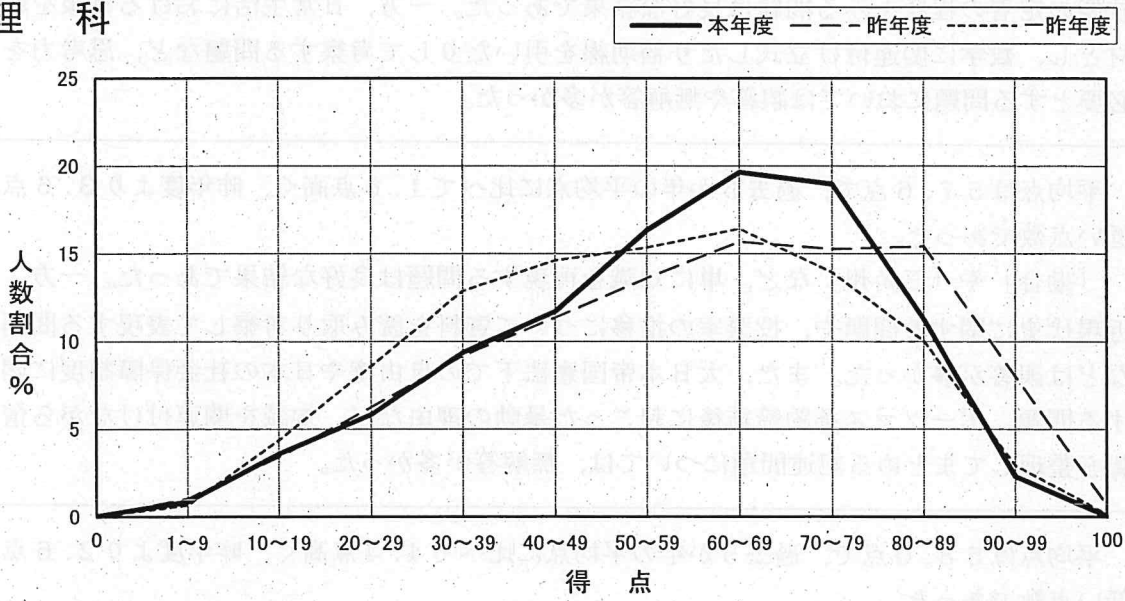
数学



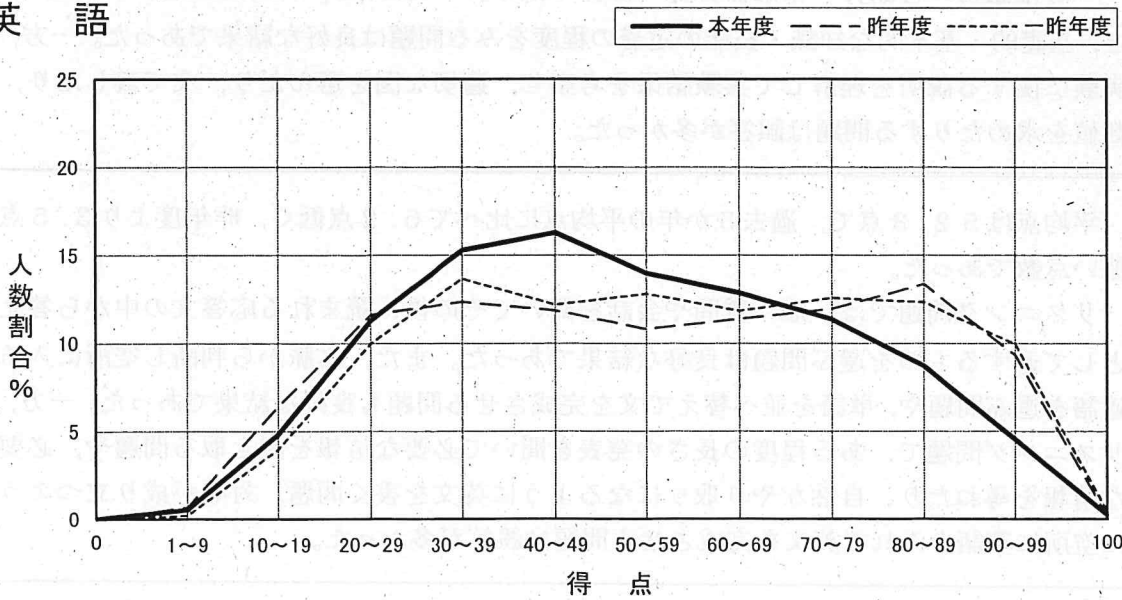
社会



理科



英語



令和3年度 徳島県公立高等学校入学学力検査(一般選抜)成績結果の概要

教科	成績結果の概要
国語	<p>平均点は60.8点で、過去5か年の平均点に比べて0.5点低く、昨年度より3.3点高い点数であった。</p> <p>漢字、語句等の基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は、概ね良好な結果であった。一方、話の展開を踏まえてふさわしい言葉を条件に沿ってまとめる記述問題、複数の資料をもとに情報を整理してまとめる記述問題については、誤答が多かった。</p>
数学	<p>平均点は46.9点で、過去5か年の平均点に比べて2.4点高く、昨年度より0.9点高い点数であった。</p> <p>「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各学習内容の基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であった。一方、日常生活における事象を題材とし、数学に関連付け立式したり補助線を引いたりして考察する問題など、思考力を必要とする問題においては誤答や無解答が多かった。</p>
社会	<p>平均点は57.6点で、過去5か年の平均点に比べて1.6点高く、昨年度より3.6点低い点数であった。</p> <p>「勘合」や「三角州」など、単に知識を再現する問題は良好な結果であった。一方、近現代史に関する問題や、投票率の推移について資料を読み取り考察して表現する問題などは誤答が多かった。また、大日本帝国憲法下での自由権や日本の社会保障制度に関する問題、ポーツマス条約締結後に起こった暴動の理由など、知識を関連付けながら情報を整理してまとめる記述問題については、無解答が多かった。</p>
理科	<p>平均点は58.0点で、過去5か年の平均点に比べて4.4点高く、昨年度より2.6点低い点数であった。</p> <p>「脊椎動物の特徴」、「相同器官」、「磁界の強さ」、「光合成」、「発熱反応」、「衛星」など、基礎的・基本的な知識・技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であった。一方、実験に関する説明を理解して実験結果を考察し、適切な図を選んだり、文で表したり、数値を求めたりする問題は誤答が多かった。</p>
英語	<p>平均点は52.3点で、過去5か年の平均点に比べて6.2点低く、昨年度より3.5点低い点数であった。</p> <p>リスニング問題では、短い質問や会話を聞いてその後に読まれる応答文の中から答えとして適するものを選ぶ問題は良好な結果であった。また、文脈から判断し空所に入る適語を選ぶ問題や、単語を並べ替えて文を完成させる問題も良好な結果であった。一方、リスニング問題で、ある程度の長さの発表を聞いて必要な情報を聞き取る問題や、必要な情報を尋ねたり、自然なやり取りになるように英文を書く問題、対話が成り立つように空所に英語を入れて英文を完成させる問題は誤答が多かった。</p>

徳島県公立高等学校普通科の通学区域見直しに伴う
令和3年度入学者選抜結果の概要

1 令和3年度入学者選抜における通学区域制に係る見直しの内容

通学区域外からの合格者数の上限を定める流入率を、次のとおり変更した。

- (1) 第3学区（徳島市内）において、
 - ・ 城東高等学校について、募集定員の12%以内であった流入率を廃止し、通学区域を全県一区とした。（城ノ内高等学校は募集停止）
 - ・ 城南，城北及び徳島北高等学校について、募集定員の10%以内であった流入率を12%以内に引き上げた。
 - ・ 徳島市立高等学校については、所管する徳島市教育委員会の意向を踏まえ、募集定員の8%以内の流入率を維持した。
- (2) 第1学区（県南部）において、学区内総募集定員の15%であった流入率を20%以内に引き上げた。
- (3) 第2学区（県北部～県西部）において、学区内総募集定員の10%であった流入率を12%以内に引き上げた。

2 結果の概要

- (1) 通学区域外から第3学区の普通科に合格した生徒数は、城東高等学校を除くと、昨年度より10人増加した。
※ 令和2年度 93人 → 令和3年度 103人
- (2) 徳島市内の公立中学校から徳島市外の普通科に合格した生徒数は、昨年度より17人増加した。
※ 令和2年度 95人 → 令和3年度 112人
- (3) 第3学区普通科全体における学区内外別合格者下位5人の平均点の差は、昨年度より32.0点縮小した。
※ 令和2年度（5校全体）92.6点 → 令和3年度（4校全体）60.6点

各教科の大問別解答状況の概要と授業改善の視点

国 語	<p>【成績結果の概要】</p> <p>一 漢字、文法、行書等、基礎的な知識に関する問題は、昨年度に比べて文法の正答率が低いものの、概ね良好である。</p> <p>二 文学的文章の読解に関する問題については、話の展開を踏まえてふさわしい言葉を条件に沿ってまとめる記述問題の正答率が低い。</p> <p>三 複数の資料をもとに説明的文章を読解する問題については、主題を捉えたうえで適切な言葉を書く記述問題の正答率が低い。</p> <p>四 古典については、基礎的な知識に関する問題は良好であるが、内容を理解したうえで条件に沿って書く問題については、正答率が低い。</p> <p>五 資料をもとに作文を書く問題については、昨年度と比べて正答率が低い。</p>	⇒	<p>【授業改善の視点】</p> <p>一 漢字の読み書き、語句等の基礎的な知識は、日常の言語生活と結び付けたうえで内容のまとまりとして理解することが必要である。</p> <p>二 話の展開における対話の意味や効果など、登場人物の心情の変化を表現する仕方に着目して読み、作品に表れたものの見方や考え方を的確にとらえてまとめる力の育成が必要である。</p> <p>三 主題を読み取る力、解答を条件に沿って簡潔にまとめる力、複数の資料をもとに情報を整理して活用する力の育成が必要である。言語活動を通して、情報活用力、思考力・判断力・表現力を育むことがなお一層望まれる。</p> <p>四 古典に親しむ機会を多くもたせるとともに、古典に表れたものの見方や考え方に触れて、作者の思いを想像する力の育成が望まれる。</p> <p>五 様々な資料などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめる機会を多くもたせることが必要である。</p>
数 学	<p>【成績結果の概要】</p> <p>基礎的・基本的な知識や技能の定着の程度をみる問題は良好な結果であった。</p> <p>1 確率を求める問題や投影図から立体の体積を求める問題、素因数分解を用いて条件を満たす最小の自然数を求める問題の正答率が低かった。</p> <p>2 袋の数を文字で表した場合の立式は高い正答率であったが、個数を文字で表した場合の立式は誤答が多かった。また、連立方程式の解から問題にあった答えを導けていない誤答が多かった。</p> <p>3 日常生活における事象を題材として数学に関連付けた問題であったが、三平方の定理を用いて線分の長さを求める問題は誤答や無解答が多かった。</p> <p>4 長方形の面積を2等分する直線の式を求める問題や、与えられた条件を満たす線分の長さをすべて求める問題の正答率が低かった。</p> <p>5 線分の長さを求める問題や四角形の面積を求める問題の正答率が低かった。</p>	⇒	<p>【授業改善の視点】</p> <p>1 基礎的な内容に関する本質的な理解や思考力・表現力を育成する必要がある。</p> <p>2 多様な方法で問題に取り組んだり、計算して得られた結果を事象に即して吟味するなどの姿勢を育成することが大切である。</p> <p>3 全国学力調査やステップアップテストなどを活用し、日常生活と関連した数学の問題などを通し、数学に対する興味・関心を一層高めるとともに、問題文を正確に読み取り、必要な情報を整理し、論理的に考える力を育成する指導が必要である。</p> <p>4 問題文から状況を読み取り、数学的に処理することができるような思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。</p> <p>5 基礎的・基本的な内容を組み合わせ、問題を解決する思考力の育成が必要である。</p>
社 会	<p>【成績結果の概要】</p> <p>1～5 「勘合」や「三角州」など、単に知識を再現する問題は正答率が高かった。一方、近現代史に関する問題や、団結権について説明する問題などは正答率が低かった。また、日本の社会保障制度に関する問題、ポーツマス条約締結後に起こった暴動の理由など、知識を関連付けながら情報を整理してまとめる記述問題については、無解答率が高かった。</p> <p>6 日本社会の成長と課題を題材とした総合問題においては、貿易の推移や税に関する問題で良好な結果となった。一方、排他的経済水域に関する記述問題は正答率がやや低かった。また、大日本帝国憲法下における自由権について記述する問題や衆議院議員総選挙における投票率の推移について記述する問題では、無解答率が高かった。</p>	⇒	<p>【授業改善の視点】</p> <p>1～5 基礎的・基本的な知識の習得が不十分な生徒に対しては、教科書の重要語句をしっかりと理解させることが必要である。また、社会的な事象について論理的に考え表現する力や、資料から情報を正確に読み取り考察する力など様々な角度から思考力・表現力・判断力等の育成を図ることが重要である。そのためには、読み取り、解釈、表現の過程を重視した授業づくりが求められる。</p> <p>6 各分野で学習した成果を関連付け、身近な地域や生活、現代社会のようすなどを多面的・多角的にアプローチできる総合的な力の育成を図ることが重要である。そのためには、日頃から単元や分野をこえて必要な時に学習成果を活用できるように、学習の積み重ねを大切に比較・関連付けの授業づくりが求められる。</p>
理 科	<p>【成績結果の概要】</p> <p>1 基礎的・基本的な内容に関する問題の正答率が高かった。一方で、問い方によっては基本的な内容でも誤答が多かった。</p> <p>2 光合成のしくみに関する問題の正答率が高かったが、実験操作を変更したときの実験結果を考察する問題の正答率はやや低かった。</p> <p>3 地球上での観測者の位置を考察する問題の正答率が高かったが、観測結果から月の公転を考察する問題の正答率は低かった。</p> <p>4 発熱反応に関する問題の正答率が高かったが、用語や、実験結果から言えることを書く問題の正答率はやや低かった。</p> <p>5 記録テープから台車の速さを求める問題の正答率は比較的高かったが、実験方法を理解して結果を考察したり、作図したりする問題の正答率は低く、無解答率も高かった。</p>	⇒	<p>【授業改善の視点】</p> <p>1 観察・実験を通じて、基礎的・基本的な内容を、生活に結びつけた知識・技能として定着させることが大切である。</p> <p>2 実験操作の意味を理解させ、実験結果がどのようなようになるか予想させた上で実験を行うことが大切である。</p> <p>3 地上から見た月の様子や、太陽・地球・月の位置関係とを結びつけられるように、空間的なものの見方の指導が大切である。</p> <p>4 用語の意味をきちんと理解させるとともに、実験レポートなどで、実験結果を適切に表現できるようにすることが大切である。</p> <p>5 観察・実験で得られたデータからグラフを作成し、規則性を考察するような経験を積み重ねることが大切である。また、実験結果や考察などを文章で記述させるなど、言語活動を充実させることが大切である。</p>
英 語	<p>【成績結果の概要】</p> <p>1～3 短い英文を聞きとる問題では正答率が高かったが、グラフに関する発表を聞いて少し複雑な思考を問う問題や、聞いた内容について自分の考えを英文で書く問題には誤答が多かった。</p> <p>4 全般的に良好な結果であった。</p> <p>5 対話が成り立つように1語の英語を加え、正しい語順で英文を完成させる問題では、正答率が低かった。</p> <p>6 質問に対する答えになるように、自分の意見等を書く自由英作文の問題では、誤答が多かった。</p> <p>7 本文の内容に関連する対話文の空所に、適語を入れて文を完成させる問題や、文脈から判断し、空所に適語を入れる問題では正答率が低く、無解答が多かった。</p>	⇒	<p>【授業改善の視点】</p> <p>1～3 日常的な話題について、自分が必要とする情報を聞き取る力を育てる必要がある。また、普段から実際のコミュニケーションの場面を想定し、質問に適切に回答したり、自分の意見を表現したりする言語活動が望まれる。</p> <p>4 日常的な話題について話されたり書かれたりした内容を正確に理解するとともに、自らも適切に表現する力を育てる言語活動の工夫が望まれる。</p> <p>5 内容理解に留まらず、理解した内容をもとに主体的に考え、場面に応じて表現する力を育成する指導が望まれる。</p> <p>6 目的や場面・状況に応じて、自分の意見や考えを伝え合う言語活動の実践を積み重ねることで、英語による自己表現の楽しさに気付かせるとともに、求められている内容を適切にまとまりよく書くための工夫について指導する必要がある。</p> <p>7 物語の概要を捉えたり、書き手が伝えようとしている要点を把握させたりして、収集・整理した複数の情報を総合的に判断し、それにもとづく自分の意見・考えなどを表現する言語活動を工夫し、コミュニケーション能力の育成を図ることが大切である。</p>